項目	重点目標 (○:市の重点目標 ◇:学校の重点目標)	キーワード	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の 意見等
学校運営	教育課程	カリキュラムマネジメント PDCAサイクル 社会に開かれた教育課程 教科等横断的な視点	・生徒会主催の球技大会を実施した。学級ごとに昼休みに練習するなど、生徒主体の行事として意欲的に取り組んだ。 ・朝の読書「さわやかタイム」(毎朝)を設定している。定期テスト前は学習の時間とし、学習習慣の向上の一助としている。 ・学校評価をもとに改善会議実施した。各部会では、いつまでに、何を、どのように改善するのか明確にして協議した。 ・週教育計画をもとに、授業時数の確保に努めた。 ・学校評価を通じて、学校として組織的に、重点的に取り組むべきことは何かを把握し、学校全体として教育活動の充実・改善に取り組む。	A	・総合的な学習の時間を中心に、必要に応じて計画を見直し、地域の人的、物的資源を活用した教育活動の充実を図る。教科、領域を横断的に扱い、地域や関係諸団体と連携しながら学習を進める。 ・今後も週教育計画をもとに授業の量的、質的管理を行う。 ・学校評価をもとに具体的な改善策を検討し、実践する。 ・家庭学習の充実など、改善が難しい課題については根気強く実践していく。	・今後も生徒が主体となって活動できる行事を取り入れてほしい。 ・生徒会活動が生徒主体で行われている。 ・家庭学習の充実については、家庭での時間の使い方を含めて啓発を行う。 ・タブレットPCが一人一台貸与されている。生徒への学習効果や先生方の働き方改革の面において、今後更に効果的な使用方法についての研修が必要と思われる。 ・専門業者の点検が必要と思われる施設(防球ネットの支柱等)においては、今後も関係機関と連携し管理を行うようにする。
	組織運営	適材適所 研修の充実 働き方改革	・専門性や継続性を考慮して組織の編制や人員の配置を行った。 ・協働体制で取り組めるよう情報機器を利用して課題や業務の共通理解を図った。 ・各種部会の開催を週時程に位置づけ、定期的に行った。 ・担当が1名の教科があり、教科によっては教科部会が困難であった。 ・生徒と向き合う時間の確保のために業務改善を進める。	B	・各部会の連携を図る。組織間の連携をもとに、課題に組織的、一体的に取り組める体制づくりを目指す。 ・校内研修は、最優先課題を明確にして計画し、焦点化して実施する。 ・教科の垣根を超えて行う教科部会を検討する。 ・校務システムを活用することにより業務の効率化を図る。	・今後も定期的な安全点検を実施し、事故の未然防止に取り組む。 ・家庭科や総合的な学習の時間等、地域人材の活用を積極的にお願いしたい。
	環境整備	施設利用 安全点検 教室配置	・委員会や部活動単位で校庭の落ち葉掃きを行った。 ・安全点検を定期的実施した。また、破損箇所等は速やかに複数名で確認した。 ・学級減に伴い学級配置を再考した。今後更に空き教室の有効活用について工夫改善を図る。	A	・生徒の自主的な活動につながるよう、今後も活動を広めていく。 ・専門業者の点検が必要と思われる施設(防球ネットの支柱等)においては、今後も関係機関と連携し管理を行うようにする。 ・定期的な安全点検を実施し、事故の未然防止に取り組む。	・着付け教室は、山あげ祭りとの関連もあり、地域を知るという意味でもよい活動であったと思う。次年度も継続して実施してほしい。
	地域連携	地域とともにある学校 コミュニティ・スクール 地域コーディネーター	・地域コーディネーターと連携し、地域の方を講師として「着物着付け教室」を実施した。 ・コミュニティスクールを基盤とし、地域との連携、協働を深めていく。	B	・家庭科や総合的な学習の時間等、今年度地域の方を講師として実施した事業について次年度も継続して行う。また、必要に応じて諸計画の見直しを行い地域の人的、物的資源を活用した教育活動の充実を図る。 ・コミュニティスクールの熟議題について、校内でも生徒主体で話し合いを行うなど、地域との連携や協働を深めていく。	
学習指導・各教科等	○学ぶ意欲を引き出し、主体的に学ぶ児童生徒の育成に努める。 ◇自ら考え、課題を解決できる生徒を育成する。	主体的・対話的・深い学び	・ねらいを明確にし、ねらいに即した振り返りを行う授業の実践に努めた。 ・学ぶことに興味や関心を持たせるよう課題の提示の仕方を工夫した。 ・自力解決型授業の実践により、課題意識をもって授業に臨み、粘り強く学習に取り組む生徒が増えた。 ・感染症対策を講じて、グループ活動やコミュニケーション活動を実施した。	B	・「思考力、判断力、表現力等」の育成を図る。具体的には、様々な情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現する活動や、互いの考えを適切に伝え合うことで、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく学習過程を実践する。 ・効果的な家庭学習の方法について生徒と共有し、自主学習ノートの充実を図る。	・授業ではタブレットPCをどのように活用しているのか。学校で課題としている部分を効果的に補う使い方について研修してみてもどうか。 ・休校時のリモート授業は、普段の授業と比較し生徒の反応等を見るのが難しかったと思う。

知の教育	情報教育	○◇一人一台の情報端末の有効活用に努める。	プログラミング教育 情報活用能力	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ、電子黒板、インターネット等、ICTを活用した授業の工夫・改善に取り組んだ。 ・調べ学習をしたり、デジタル教科書を使用するなど、タブレット端末を効果的に活用した。 ・各学級で情報モラル教室を外部指導者を招いて実施した。情報モラルの指導を年間計画に位置づけて計画的に指導していく。 ・情報活用能力の向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの育成については、生徒がネットトラブルに関わったり、巻き込まれたりしないようにルールやマナー、注意事項等を保護者会等で働きかけるなど保護者との連携を図る。 ・情報活用能力については、教科等横断的な視点から各教科等の特質に応じた適切な学習場面で育成を図っていく。 ・スマホやゲームなどの使用時間について改善が必要と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭でのインターネット環境の状況はどうか。タブレットPCを家庭に持ち帰ったときに活用できる環境であることが必要である。 ・メディアの使い方については、家庭の協力が必要であり、学年PTA等で周知していく。
	国際理解教育	○◇英語に触れ、世界を学ぶことで、豊かなコミュニケーション能力の育成に努める。	SDG's 異文化理解 英語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを持ち、主体的に表現できるコミュニケーション能力の育成を図る。 ・授業の実施に当たっては、ALTの活用に努めるなど、指導体制の充実に取り組んだ。 ・指導方法や課題設定を工夫することで、個に応じた指導を充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワーク、グループワークなどの学習形態を工夫するとともに、多様な指導方法や、学習の理解度に応じた課題設定を行うなど、個に応じた指導の充実を図る。 ・生徒の興味・関心を喚起することができるよう、様々な資料を意図的、計画的に掲示したり、視聴覚教材やインターネットを活用したりするなどの工夫を行う。 	
心の教育	児童・生徒指導	○◇自己指導能力の育成を図り、課題を解決できる児童生徒の育成に努める。	いじめ 不登校 自己指導能力 キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや不登校等、問題行動の対応について組織的に取り組み、関係機関と適宜連携を図りながら問題の解決に努めた。 ・行事や委員会、係活動等とおして、自己存在感や肯定感、有用感を育むよう努めた。 ・Q-U(学校満足度や学級集団の状態)検査の結果分析について、外部講師による校内研修を行った。望ましい学級づくりの方策が確認できた。 ・不登校生徒や別室登校生徒へ個に応じた指導の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒に対して、全教職員共通理解のもと、きめ細かく柔軟に対応する。 ・魅力ある学校づくりに努めるなど、新たな不登校を生まないための取組を充実させていく。 ・生徒のよさを認め、尊重し、自尊感情を高める指導を行う。 ・道徳や特別活動等との関連を図りながら、規範意識の育成を図る。 ・不登校生徒の希望者にタブレットPCによる学習支援を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校則について、生徒や保護者から改善の要望はないか。改善要望がある場合は、生徒の声を大切に丁寧に対応することが大切であると感ずる。 ・不登校生徒のタブレット端末による学習支援を今後も進めてほしい。
	特別支援教育	○◇共生社会に向け、自分の意見を持ち、他者の意見を認め合う雰囲気づくりに努める。	インクルーシブ ユニバーサルデザイン 合理的配慮 自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画を作成し、教員全体で共通理解を図った。 ・個別の教育計画に基づき、一人一人に応じたきめ細かな指導に取り組んだ。 ・通常学級と特別支援学級の交流を推進した。 ・生徒の特性や心身の発達の段階等に応じた自立活動の設定に取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての生徒が、安心感を高め、自信をもてるよう、学級内の温かい人間関係を育む。 ・個別の教育支援計画の作成・活用に当たっては、関係機関等と支援に関する必要な情報の共有を図る。 	
命の教育	健康教育	○自分の健康を管理し、健やかに生活する児童生徒の育成に努める。 ◇新型コロナウイルス感染症対策を継続して行う。	保健教育 保健管理	<ul style="list-style-type: none"> ・性教育、薬物乱用防止に関する講演会を実施した。 ・保健委員会で、生徒の「ストレス」についての実態調査を行った。また、全校集会(オンライン)で、生徒が調査結果や対処法等について発表を行った。 ・健康チェックシートによる体調管理を継続して行うことにより、健康管理への意識が向上した。 ・感染症対策を継続して行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いや換気などの基本的な感染症対策を継続する。 ・保健体育科の授業や各種講演会等で習得した知識を日常生活において積極的に活用できるよう、自主的な実践力を育む。 ・講演会等においては、今後も、専門性を有する教職員や地域の専門家等に協力を依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会の「ストレスアンケート」はとてわかりやすく、また、生徒も共感できる内容であったと感じる。今後も、生徒による保健教育の充実に力を入れてほしい。 ・手洗いや換気、体温のチェック等、健康管理の基本的事項は、コロナ禍が終了しても継続して指導していくことが大切である。
	安全教育	○◇危機意識を高め、安全な生活について判断・実践できる児童生徒の育成に努める。	危機管理 生活・交通・災害安全	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室や避難訓練を計画的に実施し、具体的な場面での危機管理意識を高めた。 ・下校時の反射タスキ着用について生徒に粘り強く働きかけた。 ・危機管理マニュアル、個人情報取扱規定について職員間の共通理解を図った。 ・学区が広範囲に及ぶため、遠距離通学や一人下校になってしまう生徒への安全対策に配慮する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・下校時刻は、地域の実情に合わせて細かく設定する。また、必要に応じて下校指導を適宜行う。 ・危険な状況を適切に判断し、回避するために最善を尽くそうとする「主体的に行動する態度」の育成が図られるよう避難訓練等を工夫し、防災教育の充実に取り組む。 ・感染症の影響で中止していた消防署員による救急救命法を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応は、命に係わるので、今後も教職員の共通理解のもと関係機関と連携して行う。 ・いちごやみかんなど、給食への地場産物提供を通して、地域農産物への興味や関心が高まるとよい。
	食に関する指導	○◇食への関心を高め、健康維持に励む児童生徒の育成に努める。	給食管理 アレルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・給食時に学校給食に使われている地場産物等の紹介など、食に関する校内放送を実施した。 ・希望献立のメニュー作成をとおして、給食への関心を高めた。 ・食物アレルギーについての情報の共有化や事故発生時の組織的な対応に取り組む。 ・朝食欠食、偏食傾向の生徒への相談や指導体制の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギー対応については、管理マニュアル等を確認するとともに、関係機関等と連携を図りながら適切な対応に取り組む。 ・朝食欠食、偏食傾向に対しては、保護者と連携しながら、個別の事情に応じた相談や指導を行う。 	